

【連載：第5回 福山市の生活困窮者自立支援の現状】

～畑、始めました～

「夫が体調を崩して家の隣にある畑が出来なくなったのよ、使ってくれない？」

ある日のこと、長年、ボランティアでがんばってくれていたAさんから電話をいただいた。

突然だったので良い案が思い浮かばず「ありがとうございます。ちょっと考えてみます」と言って電話を切った。

そういえば就労準備支援事業を担当しているワーカーズ・コープさんが『農作業を取り入れたいから借りられる畑があったら教えて』とおっしゃっていたことを思い出し、一旦置いた電話の受話器をすぐに上げて連絡した。

畑を見学。広さもちょうど良く、農機具も貸してもらえ、さらに水道（井戸からのくみ上げ）もあり散水も楽、すぐに「使わしてほしい」、とお願いした。

ボランティアを募集し、応募してくれた方への説明などを経て「仕事から離れた期間が長くなった。だから仕事をする前に体を慣らしたいし、気持ちを整えたい。また人と交流したい。」という人向けの畑作業ができる場「福福ファーム」が2022年10月に出来上がった。

畑作業初日、就労準備支援事業の利用者さん、生活困窮自立支援センターの相談歴のある方、ボランティアの方、職員合計10数名で雑草を抜き、土を耕し、畝をつくり、ほうれん草と小松菜、春菊の種をまいた。

数週間後、ほうれん草の芽が出たのを見た時には歓声が上がった。

さらに数週間後には初の収穫。ほうれん草、小松菜は豊作(?)であった。残念ながら春菊は芽が出なかった。収穫物を少しずつ分けて持ち帰り、次の活動日には「お味噌汁に入れた」「ソテーにした」「お浸しにした」など、どのように調理して食べたかで話が盛り上がった。

活動日は週に1回。第1・3水曜日の午前中は都合の良い人が作業する日、第2・4の午前中は全員で



作業する日としている。出入りは自由。多く言葉を交わすわけではないが、初めて来た人も作業が終わる頃には場になじんでいる。このような言葉を聞けるのが共同作業のメリット。

2023 年の夏、ジャガイモ、トマト、プチトマト、キュウリ、ナス、オクラ、モロヘイヤは大豊作だった。特にオクラの成長があんなに早いとは思わなかった。つぎはサツマイモの収穫が楽しみで仕方ない。

こうした小さくてゆるやかな人とのつながりが実感できる場を創ったり見つけたりして、孤立しがちな人をつないでいくことも生活困窮者自立支援センターの役割であると感じている。

ホームレス支援委員会 鳥海洋治

委員会の新メンバー紹介です！

昨年度の4名に続き、2023年度も3名の会員が委員会に所属し、居住支援をはじめ、困窮者支援の活動に携わっています。

いつもの職場を離れて、でも社会福祉士の視点は持ち、市民とともにボランティア活動に参加する経験は、きっとプラスになると思います。

市役所と社会福祉協議会 OB で、居住支援センター登録社会福祉士の大倉です。

団塊世代第一号で芋を洗うように育てられ、運と感だけで生きています。

公害全盛時代、市役所公害 G メンとして張り切りすぎ、一人で自動車排ガス採取器を運搬、ぎっくり腰になりました。合気道の準備体操とぎっくり腰の体操がよく似ているので、腰痛体操のつもりで市役所合気道部に入り、継続は力なりで未だに続けています。

合気道初心者は汗だくになっても、高段者になるにつれて力の抜き方と出し方を身に付けて行くので、稽古は随分楽になります。

委員長とは過去、社会福祉協議会で一緒に仕事をした仲であり、その当時からホームレス支援のオーソリティでした。

居住支援センターにおいては、初めての業務だらけで汗だくですが、委員長やセンター長を見習い、早く力の抜き方と出し方を身に着け、ホームレス支援の手伝いができるよう励みたいと思います。

大倉 健二

大人食堂の活動に令和5年6月から参加させていただいている高木幾子と申します。

現在は西区くらしサポートセンターの相談支援員として勤務しております。

昨年資格取得し、社会福祉士会に入会しました。専門職として知識・技術・人脈が欠けていることを実感し、まずはできることから始めようと夜回りの会へ参加したことがきっかけとなり、委員会の活動を知りました。仕事では悩む事が多いですが、私にとって料理に集中し、お弁当を作る作業は達成感もあり充実した時間です。

大学生時代は毎日のように青少年センターへ通い、メンバーと様々なボランティア活動に熱中していました。同じ志を持つ仲間と場所があったからこそ出来たことです。この度大人食堂のメンバーに加わり、またその可能性を感じる事ができています。大人食堂へ来られる方から、何か困った時は相談を持ちかけられるような関係性を築いていきたいです。

高木 幾子

居住支援センター登録社会福祉士の倉谷です。民生委員をしています。

本年6月から、お世話になっております。現在、私は放課後等デイサービスの職場で週3日のアルバイト勤務をしています。私は14年前、通信会社に在職中に脳卒中で倒れ、リハビリを経て復職をするという経験をしてきました。多くの人に励まされ背中を押してもらい、定年まで働き続けることができました。言語障害を含め、右半身に麻痺は残っておりますが、私も福祉の分野で働きたいと思い、退職後に専門学校に学び、社会福祉士となりました。居住支援センターでの伴走型支援のお手伝いができるように勉強させていただいております。

この度は、ホームレス支援に関わる機会を頂きましたことに、厚く御礼を申し上げます。厳しい条件の中、居住支援を必要とされる人が自分の人生を歩きだせるように、また、その意思決定の支援や環境調整をはかっていくという重大な任務に、少しでもお手伝いができるように励みます。よろしくお願いいたします。
倉谷 静馬

くつろぎ入浴サービスに、“おむすびにぎり隊”誕生！

地域包括支援センターの安否確認行動に感謝！！

今年度から、毎月第3土曜日の一回に実施日を集中させたことに伴い、朝9時から17時過ぎまで、10名が相次ぎ来所。さすがに10名分のおかずを手作りで用意出来ないことから、おむすびだけの提供にさせてもらおうと、委員会で話し合いました。それでも、一人に4～5個の特大大おむすびを提供したり、その場で食べる方もあるので、8月は33合の米を炊きました。そこで、おむすびづくりを、加納委員と井唯委員が担当。みそ入り、梅干し入り、ふりかけ入り、海苔巻き…と種類も豊富なおむすびが出来上がりました。お米を寄付してくださる皆さま、ありがとうございます。

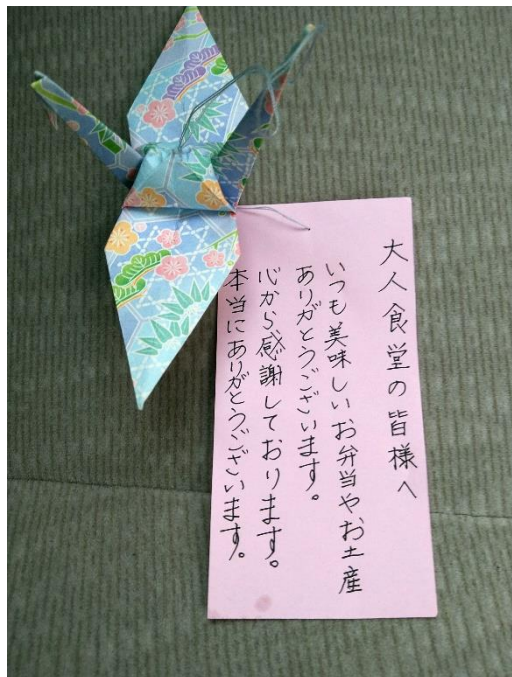
ところで、いつも時間通りに来られるMさんが来られないので、心配になって本人の携帯に電話するも、「電源が入っていません」のコール。Mさんは心臓の悪い方です。益々心配になり、思い切って地域包括支援センターに連絡したところ、職員さんが家まで様子を見に行ってくださり、本人の無事を確認出来ました。その後本人からも「体調が悪くて今日は行けなかった、充電してなかったので電話も掛けられなかった。心配かけた。」と連絡があり、ほっとした次第です。

地域包括支援センターの方に、この場を借りて改めてお礼申し上げます。

現在の利用者には、住む家はあるが、家の風呂が使えない状態の方もいらっしゃいます。いろいろな事情の方に利用いただいておりますので、入浴希望の方は、まず事務局へご一報ください。電話254-3019 その後、委員長から受け入れについて日程等の調整をさせていただきます。

(鈴川)

役立ち隊・大人食堂



♡最近の利用者が多く、70人分のお弁当を作っています。

このようなメッセージをいただいた時は、ボランティア一同、とてもうれしかったです。

♡寄付感謝

★いつもたんぱく源となる食材や調味料を寄付してくださる牛田教会の皆様、ありがとうございます。

★いつも新鮮な野菜や、お土産となる非常食やお菓子を寄付してくださるあいあいネットの皆様、ありがとうございます。

♡大人食堂は、毎月おおむね最終土曜日に開催中。

一時生活支援事業～シェルター～

昨年度に移転した先の戸建てで、2室の運営を行っています。

利用者に守っていただく「シェルター利用の約束」を改訂しました。

【連載コラム第6回】ホームレス事情日米比較

アメリカ連邦警察によるホームレス者への暴力行為

近年、アメリカで警察官による黒人への過剰な銃器使用や暴力が問題になっているが、ホームレス者もその被害に遭っていることが明らかになった。

■ボイシ市のキャンピングカーで暮らす障害者に対する連邦警察の暴行

今年5月、米国森林局および土地管理局の警察官は、アイダホ州ボイシ市北部のパイエット国有林で、キャンピングカーに住んでいた3人の男性を、暴行を加えた上、逮捕した。彼らは家主に立ち退きを命じられ、加えてシェルターにも空き室がなかったため、公園で暮らすことを余儀なくされていた。証拠として裁判所へ提出されたボディカメラの映像には、警察官が車椅子に乗るホームレスの男性に数発発砲し、背中を殴り、横たわっている間も銃を撃ち続けている衝撃的な様子が映っていた。男性は負傷後2カ月以上入院し、後遺症の残る重傷を負ったが、関与した警察官は引き続き職務を続けている。

■ワシントン D.C. マクファーソン広場からの強制退去

今年 2 月、ワシントン D.C. のマクファーソン広場で寝起きしていたホームレス者が、連邦公園局警察により強制退去させられ、逮捕される事案が発生した。この執行により、彼らは、安全な住居に繋がるサービス提供者から結果的に切り離されることになった。アメリカの居住支援団体である「公正な住まいのための全米連合 (The National Coalition for Housing Justice ; NCHJ)」は、しかるべき施設に彼らの入所が完了するまで強制退去を求めるのをやめるよう連邦公園局警察に要請していたが叶わなかった。

■警察権力の行使—人種差別とホームレスの犯罪化、二重の差別

アメリカは、都市部のみならず地方においても家賃の急速な高騰と深刻な住宅不足に直面しており、多くの人々が行き場を失っている。同時に、ホームレスを犯罪とする新しい法律により、公共の場所で座る、車やテントで寝るなどの基本的な生存行為が違法とされ、ホームレス者が逮捕される事案が後を絶たない。とりわけ、黒人や有色人種のコミュニティでは、二重の差別となっている。

統計によると、ホームレス者の取り締まりに警察を使うことは、費用がかかり、住宅に充てる予定の地域資源が転用され、黒人やその他有色人種に不当に危害を与えるなど、ホームレス問題の解決には効果がないことが明確に示されている。

■居住支援団体による大統領令発令の要求

NCHJ は、8 月 23 日、バイデン・ハリス政権に対し、ホームレス者に対する連邦警察の取り締まりをすべて停止する大統領令を発するとともに、選択 (choice)、安らぎ (healing)、人種間平等 (racial justice) に根ざした住宅とサービスへのアプローチを義務付けるよう求めた。一人ひとりのホームレス者と家族を住居に繋げ、支援サービスに結びつけることこそが、ホームレス問題を解決する唯一の効果的な方法であると彼らは主張している。

橋本 圭子

出所 : PRESS RELEASE: Federal Police Use Violent Force Against Family Living in Park - Pattern of Violence Continues、info@homelesslaw.org、2023/08/24

寄付お礼(2023年1月~8月)

  心より感謝申し上げます。  

あいあいねっと (フードバンク) 様・日本キリスト教団広島牛田教会様・

YMCA 子ども食堂様・(株)大林組広島支店様・ホームレス支援全国ネットワーク様・

日本基督教団西中国教広島西分区委員会様・その他匿名法人様 2 件

信永様・三牧様・大下様・浅尾様・福田様 その他個人 53 名 (会員 9 名含) 様より様々なお心遣いを頂きました。

居住支援センターの事業進捗状況は、別紙「居住支援ニュース」をご覧ください。